

- 1 次のⅠ群の史(資)料とⅡ群の説明を読んで、以下の問いに答えなさい。

Ⅰ群(史(資)料)

- A 筒の長さは1mぐらいあり、中はからで、外はまっすぐで重い。中はからといっても、底はふさがっている。その横に穴があり、火を通すところである。
- B 一、諸国の百姓が、刀、やり、鉄砲などの武器を持つことを、かたく禁止する。武器をたくわえ、年貢を出ししぶり、一揆をくわだてて領主に反抗する者は、きびしく処罰せよ。
- C 近ごろは、一揆や打ちこわしがほうぼうでおこっています。昔は、めったにありませんでした。こうなったのは、人々が悪いからではなく、政治をする人が、正しくないことを押しとおそうとするからです。
- D 一、政治のことは、会議を開き、みんなの意見を聞いて決めよう。
二、みんなが心を合わせ、国の政策を行おう。
- E 第1条 人の和を第一にしなければなりません。
第2条 仏教をあつく信仰しなさい。
第3条 「天皇」の命令は必ず守りなさい。
- F 今はなき人物が、あなたたちにあたえた恩は、山よりも高く、海よりも深いものです。その恩に報いようと思う者は、力を合わせてがんばりましょう。
- G その国の王は、もとは男性であった。しかし、戦いが続いたので、相談して女性を王にたてた。彼女は、まじないをして、人々をひきつけるふしぎな力を持っていた。
- H 天下の富を持つ者はわたしである、天下の力を持つ者もわたしである。この富と力で大仏を作るとはむずかしいことではない。

Ⅱ群(説明)

- 1 九州の島原(長崎県)や天草(熊本県)で、重い年貢の取り立てに反対して多くの人々が立ち上がりました。この時、彼らは武器を持っていました。そうすると、百姓から強制的に武器を取り上げて反抗できないようにしたとされるこの法令は、必ずしもそれを厳格に命じた法令ではなかったこととなります。
- 2 この人物は、仏教をたつとび、役人の心構えを示すとともに、中国へ使いを送って対等なつきあいを求めたとされています。しかし、手紙を見た中国の皇帝は、無礼であると激怒したとされています。
- 3 16世紀中ごろ、ヨーロッパ人を乗せた船が日本列島に流れ着きました。その時、領主が買った武器は、たちまち関西地方を中心に大量に作られるようになりました。この武器は、それまでの戦い方を大きく変えるものでした。
- 4 この天皇は、世界を仏の光で照らすことを願って、奈良の東大寺に金色の大仏をつくることにしました。それは、平城京から山背国(京都府)、近江国(滋賀県)、摂津国(大阪府)、さらには745(天平17)年にふたたび平城京を都としているように、政治的に安定しない時のことでした。
- 5 政府による改革が進む中、さまざまな特権を奪われた人々の中には、反乱や一揆をおこす者がいました。それと同じころ、「政府は一部の限られた者によって動かされている。議会を開いて、広くみんなの意見を聞くべきだ」と言論で主張する人もいました。
- 6 この時代には、生産を増やすため新田開発をさかんに行って、生産力を向上させました。生産力の向上は、現物の租税を取り立てることによって成り立っていた政権の基盤を揺るがすことになり、最終的には農民たちへのしわ寄せとなりました。
- 7 幕府が開かれたのはこの事件よりも前でしたが、幕府の力がようやく西国までおよぶようになったのは、この事件よりも後のことでした。法律や裁判の制度が整えられ、幕府の基礎が固まったのもこの事件の後でした。

- 8 その王は、古いによって「国」をおさめる「顔」を持っている一方で、中国のある国に使いを送り、皇帝にお会いして朝貢(貢ぎ物をたてまつる)することを求めました。使いは、中国のその国が戦争に勝った翌年をあえて選んで行きました。それに対し皇帝は、その王に、支配下の「国々」を含む倭国全体の王としての称号や鏡などを授けました。

問 1 I群のA～Hの史(資)料ともっとも関係の深いものを、Ⅱ群の1～8の説明の中からそれぞれ1つ選び、数字で答えなさい。

問 2 I群のA～Hの史(資)料を年代の古い順に並べ替えた時、3番目と6番目にあたる記号を答えなさい。

問 3 Ⅱ群(説明)の4に登場する天皇が位についた時代の人々は、おもに次のような租税をおさめなければなりませんでした。稲の収穫高の3%をおさめる租、織物や地方の特産物をおさめる調、1年間に10日都で働くか布をおさめる庸です。

このうち、租は実際には2束2把の稲をおさめました。束と把の関係は、10把＝1束の10進法です。国家または政府が見込んでいた稲の収穫高は、1人あたりいくらになりますか。四捨五入して束の単位まで答えなさい。

問 4 Ⅱ群(説明)の8に登場する王の、「古いによって「国」をおさめる 以外の「顔」はどのようなものであったと考えられますか。説明しなさい。

2 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

日本の農業は、環境^{かんげい}の変化にともなって、大きく変わろうとしています。一般に農業は、地域の自然環境と密接にかかわって営まれています。米作りを中心とする農業^①も、その一例といえるでしょう。しかし近年は、それ以外^②の社会的な影響も強く受けています。

20世紀後半、産業の仕組みの変化にともない、日本の農業経営は大きく変わらざるをえませんでした。農家の農業収入の割合は大きく低下し、兼業農家の割合^③も増えました。自然環境^④に合わせていた水田の形態も、生産性を高めるためにさまざまな改良^⑤が加えられたので、農村風景も大きく変わりました。

今日、食料自給率の低い日本では、「食料の(A)」を確保する一方で、「食料の(B)」にも厳しく対処することが求められています。この2つの問題を解決するための政策として、国内農業を積極的に保護・育成していこうという考えがあります。しかし一方で、1990年代に入ると、これまで例外的にしか認めてこなかった米の輸入制限を、少しずつ緩める政策をとるようになってきました。国際化が進む中で、日本の農業を取りまく社会環境は、いっそう複雑なものとなっています。

問1 文章中の(A)・(B)に入る語句の組み合わせとして正しいものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|---|------|------|
| ア | A 供給 | B 安全 |
| イ | A 供給 | B 需要 |
| ウ | A 需要 | B 安全 |
| エ | A 需要 | B 供給 |

問2 下線部①の例の1つに、家の造りがあります。日本のある地域の家屋を撮影した下の写真A・写真Bを見て、次の問いに答えなさい。



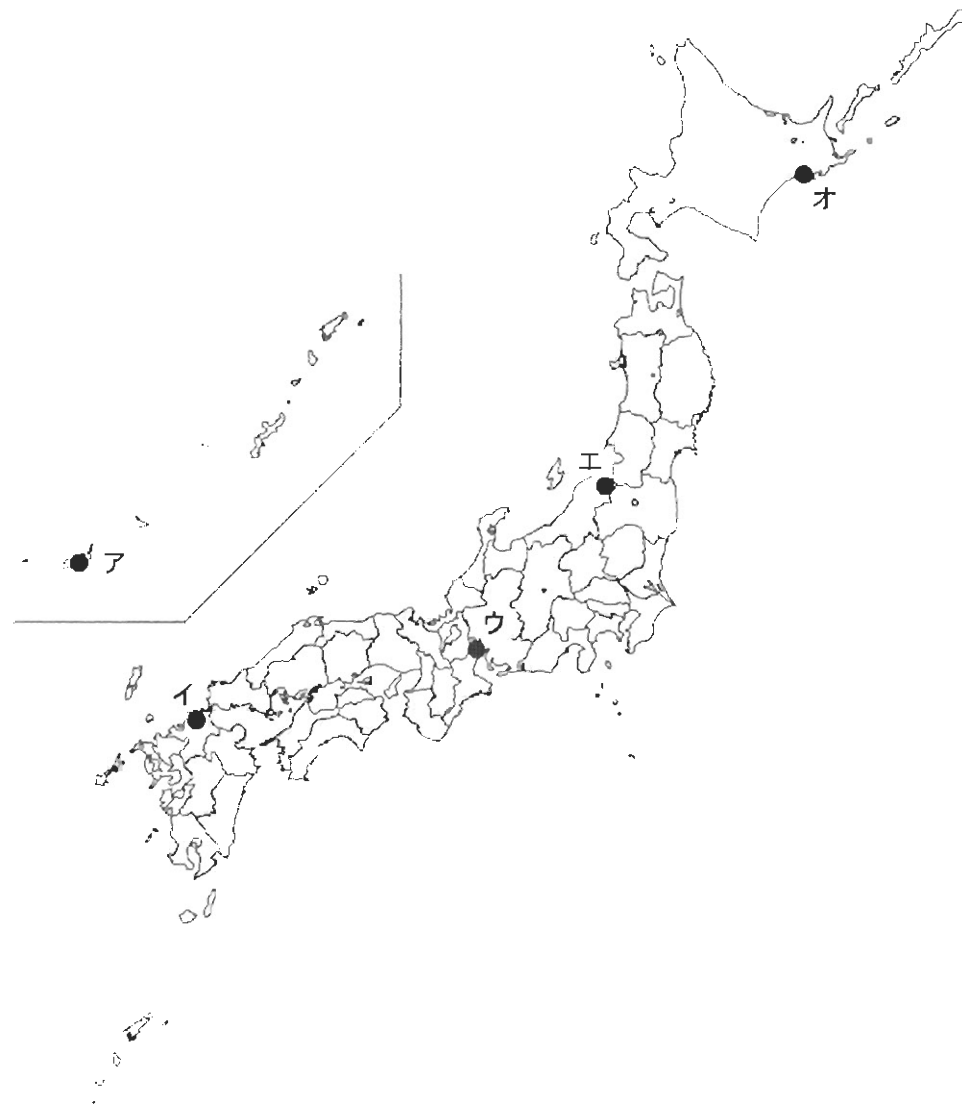
写真A



写真B

1 写真A・写真Bの家屋では、どのような気候に対して、どのような工夫をした家造りをしているかを、Aについては2つ、Bについては1つ挙げ、それぞれ説明しなさい。

2 写真A・写真Bの家屋は、下の地図のア～オのどの地域の家屋ですか。それぞれ選んで記号で答えなさい。



問 3 下線部②に関連する次の問いに答えなさい。

表1は、世界各国の米の生産について示したものです。日本も含めたアジアの東部は、世界の中でもとくに米の生産量の多い地域であり、表1の上位6カ国はすべてアジアの国で占められています。表1の(A)～(C)に当てはまる国を、次のア～カの中から、それぞれ1つずつ選び、記号で答えなさい。

ア インド イ エジプト ウ ブラジル
エ ベトナム オ モンゴル カ 中国

表1 世界各国の米の生産(2005 年)

国名	面積(千km ²)	人口(千人)	米(千トン)	割合(%)
(A)	9,598	1,323,345	185,454	30.0
(B)	3,287	1,103,371	129,000	20.9
インドネシア	1,905	222,781	53,985	8.7
バングラデシュ	144	141,822	40,054	6.5
(C)	332	84,238	36,341	5.9
タイ	513	64,233	27,000	4.4

(『世界国勢図会』2006/07 年版より作成)

問 4 下線部③について、近年、これまで用いられてきた専業農家・兼業農家に代わる新しい分け方が設けられました。

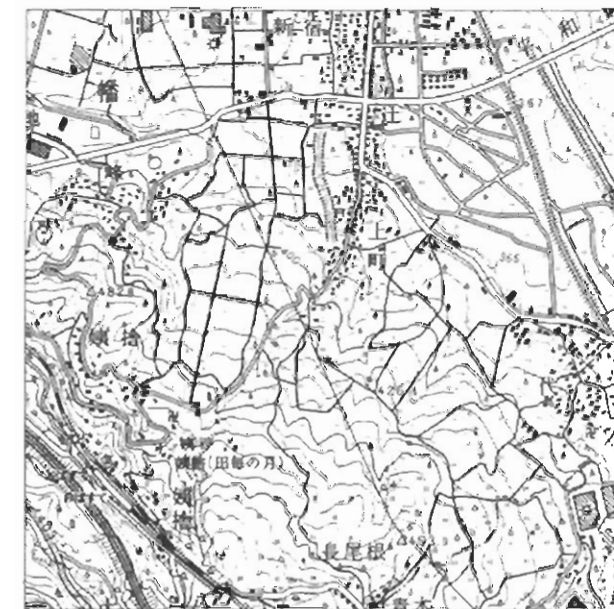
分類の変更は、農業に限ったことではありません。政府などが、一定期間ごとに統計をとり、場合によっては分類の仕方を変えるのはなぜですか、説明しなさい。

問 5 下線部④について、次のページの地形図A・地形図Bは、現在見られる2種類の代表的な水田の形態を示しています。これについて、次の問いに答えなさい。

- 1 「生産性を高めるためにさまざまな改良が加えられた」のは、どちらの種類の水田ですか。A・Bのいずれかの記号で答えなさい。
- 2 ①で選んだ水田の形状の特徴について、地形図からわかることを2つ答えなさい。
- 3 ②のような特徴の水田が増えたことは、1960年代以降、米作りを行う農家の兼業化が進む理由の1つとなりました。それはなぜですか。説明しなさい。



地形図A



地形図B

(A・Bともに、国土地理院発行2万5千分の1地形図。縮尺はそのまま)

問 6 下線部⑤について、日本が米の輸入制限を緩めたのはなぜですか。下の表

2・表3からわかる日本の貿易の特色を挙げながら、説明しなさい。

表2 日本の貿易輸出入総額(単位は億円)

	輸出	輸入	輸出－輸入
1970年	69,544	67,972	1,571
1975年	165,453	171,700	－6,247
1980年	293,825	319,953	－26,129
1985年	419,557	310,849	108,707
1990年	414,569	338,552	76,017
1995年	415,309	315,488	99,821

(『数字で見る日本の100年』改訂第5版より作成)

表3 日本からの主な輸出入品のうちわけ(単位は輸出総額に占める割合(%))

	輸出品			輸入品		
	食料品	原料・燃料	工業品	食料品	原料・燃料	工業品
1970年	3.4	1.0	94.8	13.6	56.1	29.8
1975年	1.4	1.1	96.1	15.2	64.5	19.9
1980年	1.2	1.0	96.6	10.4	66.7	21.7
1985年	0.7	0.7	97.6	12.0	57.0	28.1
1990年	0.6	0.8	97.0	13.4	36.2	47.6
1995年	0.5	1.0	96.4	15.2	25.7	56.9

(『日本国勢図会』1981・1987・1996/1997年版より作成)

(「工業品」は、「軽工業品」と「重化学工業品」の合計)

1

問 1	A	B	C	D	E	F	G	H
問 2	3 番 目		6 番 目		問 3	(東)		
問 4								

2

問 1								
問	(1)							
	A							
	B							
2	(2)	A	B	問 3	A	B	C	
問 4								
問	(1)							
	(2)							
	(3)							
5								
問								
6								

社 会	
受 験 号	